

中国四川省農村部児童の体育授業に対する 態度得点を高める指導法の検討

—特に、日本で作成された小学校体育授業プログラムの適用を通して—

○ 湛 藍(立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科) 大友 智(立命館大学スポーツ健康科学部)

宮尾 夏姫(同志社女子大学現代社会学部) 藤井 一貴(立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科)

キーワード：幅跳び遊び 体育授業に対する愛好的態度

1. 緒言・目的

中国政府は、体育の指導理念、指導目標、あるいは授業時間数が記載されている義務教育体育与健康課程標準(2017)を告示した。特に、児童が体育に対して愛好的態度を育むことを体育の中心的な目標として掲げた。また、「中国教育改革と開発プログラム」(中国国務院, 2010)、体育強国建設綱要(中国国務院, 2019)では、中国農村部小学校の体育授業の質向上が必要であると述べ、中国政府の体育授業の質向上に対する積極的な取り組みが見られた。

しかしながら、実際の中国農村部小学校の体育授業では、①教育方法が単一である等の「授業に関わる課題」(韓, 2016)、②教具の不足等の「資金不足による課題」(呉, 2017)、及び③経験不足の教員が多い等の「教員の課題」(劉, 2019)、等が指摘された。これら3つの課題が相互に関連し、中国農村部小学校の体育授業の質が、向上していないと考えられる。

また、中国四川省は、経済発展に重きを置いており、そのため、都市部と農村部の間に、大きな経済格差がみられ(四川省統計局, 2018)、四川省農村部小学校の体育授業の改善に対する取り組みは十分ではない。

本研究の目的は、中国四川省農村部小学校第3学年児童の体育授業に対する態度得点を高める指導法を検討することであった。特に、日本で作成された小学校体育授業プログラムを中国四川省農村部小学校第3学年児童に適用することを通して検討した。

2. 研究方法

2.1. 対象教師、対象児童、及び、対象単元

対象教師は、中国四川省農村部の2つの小学校に所属する教職経験3年の2人(以下、A, B教師)であった。

対象児童は、2人の教師が実施した体育授業(以下、a, bクラス)に参加した四川省農村部小学校第3学年児童、計71名(aクラス男子17名女子14名の計31名、bクラス男子22名女子18名の計40名)であった。

対象単元は、幅跳び遊び(a, bクラス各1単元計2単

元)であった。

2.2. 対象単元実施期日

対象単元は2019年5月9日-6月10日に実施された。

2.3. 単元計画

大友(2007)によって作成された幅跳び遊びの単元計画を改変し適用した。

2.4. データ収集

単元前後に態度測定による体育授業評価法(高田, 2000)を、毎授業後に形成的授業評価法(長谷川, 1995)を実施した。

2.5. データ処理

データ処理は、SPSS Ver. 24.0(IBM)を用いて行った。

2.6. 倫理的配慮

本研究は、立命館大学人を対象とする研究倫理審査委員会によって承認を受けた(倫理審査承認番号: 衣笠一人-2018-73 承認日: 2019年3月)。

3. 結果及び考察

得られた主な結果は、以下の通りであった(表1)。

表1 態度測定による体育授業評価法(総合得点)の分析結果

クラス	介入授業前		介入授業後		測定時期	群	交互作用	
	①	②	①	②				
	N	M	SD	M	SD	F	F	F
a	31	46.00	7.36	51.00	5.54	24.40***	2.25	5.76**
b	40	49.90	4.84	52.98	4.95			

***p<.001

**p<.01

総合得点(表1)及び全ての下位因子(4因子)に関して、二要因分散分析を行った結果、それら全てについて、測定時期に有意差(p<.05)が見られた。

以上から、中国四川省農村部児童の体育授業に対する態度得点を高めるために、日本で開発された体育授業プログラムは貢献する可能性のあることが示唆された。

4. 主な引用・参考文献

中国教育部(2017) 義務教育体育与健康課程標準